

三河一向一揆

についての補足説明

[引用文献・六ッ美風土記、私達のふるさと中之郷、ふるさと六ッ美西部 他]



三河一向一揆の背景

☆一向一揆は、戦国時代に一向宗(真宗)門徒が起こした一揆で、
15世紀後半から急激に教団は組織力を強めた
他方で領国支配の強化を図る守護大名と対立した

☆三河一向一揆(1563年～1564年)発生の背景

- 当時、三河三ヶ寺・・本證寺(野寺)、上宮寺(佐々木)、勝鬘寺(針崎)・・には、「守護不入の特権」と言って社寺の領内には大名の支配が及ばないという特権が与えられていた。三ヶ寺傘下に入っている小領主たちも同様に不入の権利を持っていた
- 桶狭間の戦い(1560年)後、着々と三河の領国化を進めていた家康は、この特権を認めるわけにはいかず、しばしば不入権をおかして寺に入りこむ事件が起きていた
- この行為は、一向門徒にとっては、共通する信仰の危機であり、課税を重くされて生活が困窮するという危機でもあり、不満は爆発寸前であった

三河一向一揆の始まり

- 1563年9月、家康の家老酒井正親の家臣菅沼藤十郎が、兵を引き連れて佐々木の上宮寺に押しかけ、寺の兵糧米を奪った。この暴挙に対して、三ヶ寺が協力し、信徒を動員して兵糧米を奪い返した。
この事件から岡崎城に対する一向宗徒の一揆に発展したと伝えられている
- この一揆は、表面的には支配力の拡大をはかる家康と一向宗徒との戦いであったが、裏面的には家康の勢力伸長に反対する吉良東条城主・吉良義昭、八ツ面山城主・荒川義弘もこれに加わって立ち上がるという複雑な内容を持つものであった
- 一揆方は、「**法敵退治の軍、進む足は往生極楽、退く足は無限地獄**」と書いた短冊や大旗を掲げて戦い、家康側の砦に何度も押し寄せた。
- 六ツ美地区においても、複雑な形で敵味方に分かれて戦い、平和な穀倉地帯が一変して戦乱の場となった

三河一向一揆・戦いの内容

- 家康は岡崎城にいたが、時には上和田の淨珠院に赴いて戦いの指揮をとった
 - 本多広孝は、土井城を固めていて、近くの勝鬘寺や土呂の本宗寺の宗徒、吉良義昭とも戦った
 - 上和田城の大久保一族は、大久保忠俊、忠勝、忠員、忠佐等の名のある勇将が多く針崎、土呂の一揆勢と戦った
 - 戦いのピークは、翌年1月針崎、土呂、野寺の一揆が総がかりで、上和田城を攻めた時で、まさに落城という時に、家康が家臣を連れて駆けつけ撃退した戦いであった
 - やがて一揆勢の中から家康に降伏する者が続出し、1564年2月13日、上宮寺の一揆が岡崎城に攻撃をかけたのを最後に、28日頃までに大体鎮定された
 - 吉良義昭、荒川義弘は上方に、出奔した
- 主な**一揆側**・・・三河三ヶ寺、土呂の本宗寺、本多正信、渡辺守綱、蜂谷貞次、
吉良義昭、荒川義弘、酒井忠直、夏目義信 等
- 主な**家康側**・・・淨珠院、上和田・大久保氏、土井・本多氏 等

三河一向一揆後の動き

- 1564年2月、家康と一向宗寺院との和平交渉は上和田の浄珠院で行われた
- 家康は「寺院は元のままに」という条件で和を結んだが、沈静化したと見ると1564年5月一向宗方に改宗を命じた。これに伴い寺院や道場を破壊し、僧侶も追放した。僧たちの約束が違うという抗議も受け付けず、破却を強行した
- すべてを強力な統制に組み入れ、一揆の再発を防止するという狙いもあり、以後20年間三河では一向宗は禁止された
- 一方、一揆方に加わった武士たちは許された
- 20年後の天正11年(1583年)に、家康の叔母・石川妙春尼の嘆願によって「真宗赦免状」を書き、本願寺派寺院は再興を許された
- この時期の家康は、武田氏を倒し、三河、遠江、駿河、甲斐、信濃の五ヶ国を平定し、揺るぎない地位を築き上げていた

本證寺

(ほんしょうじ)

■所在地: 愛知県安城市野寺町野寺26

■形式: 城郭伽藍 ■築城年: 鎌倉時代 ■築城者: 慶円上人 ■遺構: 碑・鼓楼・土塁・堀

鎌倉時代に慶円上人によって建立された浄土真宗の寺。室町中期になると、本願寺蓮如の布教によって本願寺派に属し、三河本願寺の教団として大きな勢力を誇った。その後、永禄3年(1563年)に起きた三河一向一揆の際に、中心寺院の一つとして徳川家康と対立したため一揆終結後に破却され活動を禁じられたが、天正13年(1585年)に家康の叔母に当たる石川妙春尼の嘆願によって禁制が解かれ再興を果たした。櫓のような鼓楼、山門から本堂を取り囲むようにして残っている水を蓄えた堀、境内の一部に残る土塁。遺構が良好に残っている



本堂



山門



堀

上宮寺 (じょうぐうじ)

■所在地: 愛知県岡崎市上佐々木町梅ノ木36

— 三河三ヶ寺 —

聖徳太子の開基からはじまるといわれる。当初は天台宗だったが、後に真宗に改めて15世紀に高田派から本願寺派に改派し、勝鬘寺・本證寺と共に真宗**本願寺派三河三ヶ寺**と称されて三河・尾張・美濃・伊勢で末寺・道場105を持つ中本山として大きな勢力を誇った。**永禄6年(1563年)**、西三河の統一を図る**松平家康と不入特権を巡って対立し、三河一向一揆の拠点となる**。一揆鎮圧後、上宮寺は本願寺派寺院追放命令によって破却されたが、石川妙春尼の嘆願によって再興が認められた



本堂



鐘楼

勝鬘寺 (しょうまんじ)

■所在地：愛知県岡崎市針崎町朱印地 3

三河初の真宗道場として正嘉2年(1258年)に信願房了海によって創建されたことから始まる。当初は矢作川沿いの赤渋にあったが、水害のため明応5年(1496年)に現在地に移転。永禄6年(1563年)に三河一向一揆が起こると一揆方の拠点の一つとなり、渡辺高綱らの門徒武士が境内に立て籠もって家康に背いた。一揆時、勝鬘寺は兵火で大伽藍を焼失したが、天正13年(1585年)に家康の許しを得て再興した。寺院復興と共に末寺・門徒の拡大が進み、浜松・名古屋のほか江戸にも当寺通所・末寺が設けられ、その道場数は、百数十ヶ寺に及んだ。

(当寺には、永禄7年1月針崎で戦死した渡辺高綱の立派な碑がある)



山門



本堂

浄珠院

(じょうじゅいん)

■所在地：愛知県岡崎市上和田町北屋敷55
—— 三河一向一揆・松平家康の本陣 ——

三河一向一揆に手を焼いていた家康が本陣を構えて指揮をとった寺。永禄7年(1564年)1月、両軍は上和田城と勝鬃寺の周辺地域で衝突したが、2月になると大久保忠俊や常源などから和議が提案され、本寺において和議が成立した。



山門



本堂

本宗寺

(ほんしゅうじ)

■所在地：愛知県岡崎市美合町平地50
—— 石川数正・妙春尼の墓 ——

応仁2年(1468年)に連如上人によって創建される。当初は土呂(福岡町)に建立されていたが、三河一向一揆の一拠点として松平軍に抵抗したため、戦後に破壊されたが、石川妙春尼による再三の嘆願によって現在の場所に再建された。

また、境内には再興に尽力した石川妙春尼と石川数正の墓がある



山門



本堂



石川数正の墓



石川妙春尼の墓

山中八幡宮 (やまなかはちまんぐう)

■所在地：愛知県岡崎市舞木町宮下8

—— 難を逃れた鳩ヶ窟 ——

文武天皇の代に、この地を治めていた山中光重が八幡大神を奉祀したのが創立由来といわれている。応永年間になると、初代・松平親氏が参拝して開運を祈願した。その後、天文年間に一度消失したが、8代・広忠の手で再建され今に至る。永禄6年(1563年)、三河一向一揆が起きると、門徒に追われた徳川家康は山中八幡宮内にある洞窟に身を潜め、危機を脱した。以来、この洞窟を「鳩ヶ窟」と命名した。その後、石川数正を工事監督にして全体の修理をし、慶長8年(1603年)には朱印状を付して神領150石を寄進した。



本殿



鳩ヶ窟



樹齢650年のクスノキ
御開運竹



日本仏教概観(1)・・・平安時代まで

1.古墳・飛鳥時代

- ・大乘仏教日本へ伝わる(538年)
- ・蘇我氏(崇仏派)と物部氏(廃仏派)の争い⇒蘇我氏の勝利 用明天皇 仏教徒に
- ・聖徳太子、仏教に帰依し、仏教思想を政治・統治の基本とする
(十七条憲法の制定、法隆寺・四天王寺の建立等)

2.奈良時代・・・学問仏教・国家仏教の時代

- ・聖武天皇 全国に官立の国分寺の建立、総国分寺が東大寺 大仏開眼供養(752年)
- ・教義の上では、6系列にわかれていた ⇒ 現在3宗・・・華嚴宗 律宗 法相宗

3.平安時代・・・貴族仏教の時代・・・皇族・貴族への加持・祈祷等が主

☆最澄・・・伝教大師(767～822年)・・・天台宗の開祖

- ・唐に渡り、天台山で天台教学を学ぶ 教義の他に、密教、禪、戒律を身に着け
比叡山に延暦寺で展開 桓武天皇の後援で「天台宗」を興す

☆空海・・・弘法大師(774～835年)

- ・最澄と共に遣唐使として唐へ、真言宗に興味を持ち密教の秘法を学ぶ 806年帰国
正統密教の継承者として平安仏教の第一人者 「真言宗」を興す
庶民のための教育機関を開設したり、社会事業にも功績をのこした
- ・高野山に金剛峰寺(こんごうぶじ)を建立

日本仏教概観(2)・・・浄土信仰の台頭

★鎌倉時代・・・天災、飢饉、戦乱の世情を反映して、「仏法の教えが減じる時代が来る」という「末法(まっぽう)思想」が広がり、貴族も民衆も危機意識に陥った

⇒「阿弥陀仏を信じ、すがって死後、極楽浄土に生まれて悟りを得る」いう浄土信仰が台頭する

☆融通念仏宗(ゆうずうねんぶつしゅう)・・・良忍(1072～1132年)

「ひとりの念仏と、すべての人のとなえる念仏とが互いに融合しあって往生できる」と説く

☆浄土宗・・・法然 [法然房源空(1133～1212年)]・・・日本仏教史上最大のキーマン

- ・民衆に受け入れられた浄土教を思想的に更に深め、思想的基盤を築いた
- ・専修念仏(せんじゅねんぶつ)・・・「ひたすらに念仏を唱えることで、阿弥陀仏の本願に出会い往生が遂げられる」と説く
→知恩院(京都)

☆浄土真宗・・・親鸞(1173～1262年)・・・浄土真宗の開祖

- ・法然の教えを純粹に徹底し、法然の説く浄土の真実の教えである浄土真宗の確立
- ・「阿弥陀仏の力を心から信じた瞬間からすぐわれる」「阿弥陀仏の衆生を救わずにはいけないという願力(本願)に、疑うことなく信賴し、感謝の心と共に念仏を唱える」

☆時宗(じしゅう)・・・一遍 (1239～1289年)

- ・南無阿弥陀仏の六文字に救済の力があると説く 遊行(ゆぎょう) と 踊り念仏 による祈りの仏教(踊り念仏・・・太鼓や鉦(かね)を打ち鳴らし念仏を唱える所作が踊りに似る)

日本仏教概観(3)・・・本願寺の変遷

1. 本願寺の誕生から沈滞まで
 - ・親鸞が90才で往生した後、親鸞の末娘「覚信尼」(かくしんに)が京都大谷に親鸞の墓所・大谷本廟を建立(1272年)
 - ・覚如が、本廟を「本願寺」と名付けて寺院とし(1310年)本願寺教団の基盤をつくった
 - 一方、親鸞が京都に帰った後、関東各地ほかで「門徒」と言われる集団が形成されていった
 - ⇒覚如の本願寺と門弟たちの門徒と軋轢をうみ、本願寺は100年間の衰退・沈滞化を迎える
2. 本願寺8世 蓮如(1415～1499年)の登場・・・「浄土真宗中興の祖」と称えられる
 - ・当時の世相・・・「応仁の乱」(1467～1477年)、大飢饉が発生した室町時代後期
 - ⇒「土一揆」(つちいっき)の発生・・・近畿を中心にしばしば起こった農民の一揆
 - 年貢の減免等を求めたり、貴族・守護の支配に抵抗
 - ・浄土真宗の教え「本願他力」の阿弥陀信仰を説き、民衆への巡回教化
 - [講の開催、御文(おふみ)発信、正信偈(しょうしんげ)・念仏・和讃]により誓願を説く等
 - 1468年三河地方を巡回・・・[福岡町 土呂説教所]
 - ⇒門徒の隆盛・本願寺教団の勢力回復・増大
 - 阿弥陀仏を一向(ひたすら)信じることから、教団は「一向宗」と言われていた
3. 比叡山との確執・・・本願寺への弾圧
 - ・本願寺、門徒集団の肥大化により、旧体制(比叡山)衆徒による本願寺襲撃 (1457年以降度々あり)
 - ・1465年、本願寺破却・・・京都を去り、福井県の吉崎御坊(よしざきごぼう)を布教の中心に
 - ・1478年、山科本願寺再建に着手、1484年に完成 後、1532年に法華一揆衆によって焼失
 - ・1496年大阪に本願寺建立・・・石山御坊

一向一揆の勃発から終結へ

★三河一向一揆が、家康の智略等があったと言え、1564年に終焉していることは特筆に値する

☆織田信長が、大教団(比叡山天台宗、本願寺一向宗)へ政治的・宗教的圧力を加える

⇒比叡山の焼き討ち(1571年)、滋賀県東部や湖北地方の天台系の寺院の多くを焼き討ち

⇒一向宗の僧侶や門徒集団は、「進むは極楽往生、退くは無間地獄」のスローガンのもと、
信長配下の大名の領国制支配に各地で交戦 (越前、加賀、近畿)

⇒1570年、石山本願寺との合戦勃発、1580年朝廷の和解によって和睦、顕如は和歌山へ

顕如の長男教如、和睦に反対して抵抗するが敗北、石山本願寺は焼失

⇒本能寺の変(1582年)で、信長没

☆本願寺復興へ

・秀吉、顕如を本願寺大僧正の位に付け(1585年)

京都六条堀川に寺地を与え本願寺再建 ⇒後に「西本願寺」

・家康、1602年に、教団の肥大化や跡目相続等の真宗教団内部の複雑な事情を考慮して

京都六条烏丸に寺地を与え本願寺を建立 ⇒ 東本願寺へ

禅宗・日蓮宗について(鎌倉時代以降)

★禅 宗

☆臨済宗・栄西(1141～1215年) 仏陀への道を禅宗に求める

座禅しながら禅問答により悟りに近づこうとする 文化の発展興隆にも力を注ぐ

鎌倉 妙心寺 京都 天竜寺

☆曹洞宗・道元(1200～1253年)・ただ座禅することがすべて

・「只管打座」(しかんたざ)・ただひたすらに、座禅に打ち込むことが悟り

福井 永平寺

[天台、真言、臨済、曹洞の中国伝来系の寺院では、激しい戒律や修行が課せられていて、若い僧侶は日夜修行に励む]

★日蓮宗・日蓮・(1222～1282年)・[法華経](ほけきょう)に信仰の核心を求め、お題目

「南無妙法蓮華経唱えれば救われると説く

・法華経だけが釈迦の唯一の救いであり、個人も国家も現世で救わねばならないと説く

山梨県 久遠寺 千葉県 誕生寺